

4 研究のまとめ

(2) 成果と課題

ア 成果

- 道徳の授業における「問題解決的な学習」の一形式を示し、授業実践を通してその有効性を明らかにしました。

本研究では、書く活動①、話し合い、書く活動②の流れを1時間の授業の中に位置付けました。話し合いの前後で書く活動を2回設定したことで、児童生徒は、道徳上の問題について根拠に基づいた自己の考えを明確にしたり、話し合いを踏まえた自己の考えの強化や変容を感じたりすることができました。また、自己の考えを基にした話し合いを行ったことで、問題を多面的・多角的に考え、主体的に判断することができました。

- 道徳の授業の評価に向けた基礎研究に取り組むことができました。

道徳の内容項目に対する児童生徒の意識についての事前調査を行うとともに、授業のワークシート、授業の振り返りカードを作成して、授業の実践に取り組みました。これらの結果を基に、授業前から授業中、授業後を通じた児童生徒の変容について分析を行いました。このことを踏まえ、1単位時間の評価や学期、年間といったスパンでの道徳科の評価について考えることができました。

イ 課題

- 「問題解決的な学習」の一形式を示すことはできましたが、より多面的・多角的に考え主体的に判断する児童生徒を育成する授業実践のためには、どこでどのような発問を設定するかが重要であると考えます。今後、場面発問や主題発問など発問の種類や組合せなどについて研究を進め、その有効性を明らかにしていきたいと考えます。

- 道徳の授業の評価に向けた基礎研究に取り組むことはできましたが、それをどのようにして評価につなげていくのか具体的な方法を明らかにする必要があります。まず、評価の観点については、本研究の観点以外にも以下のようなものが考えられます。

- ・各教科の観点と同様で「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」
- ・道徳的実践力が内包する「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的実践意欲・態度」
- ・道徳的自覚の深まりに関わる「道徳的価値理解(価値理解・人間理解・他者理解)」「道徳的価値の主体的把握(自己理解を含む)」「道徳的価値実現への意欲の喚起」

また、今回は意識調査を最初の1回だけ実施しましたが、学期の終わりに再度実施し、その変容を見て評価に生かすことも考えられます。さらに、児童生徒の道徳的行為の見取りや対話による聞き取りなども評価の対象になってくるのではないかと考えています。今後も評価の意義を踏まえつつ、実際に生きて働く評価になるよう検討していきたいと考えます。